

四国ジュニア 徒手競技規則 2024 年度決定事項

〔難度の数とレベル〕

※個人演技徒手（チャイルド）及び徒手団体に要求されるもの

※徒手演技には、以下の難度が含まれていなければならない

※コンバイン難度使用不可とする

【個人】

ジャンプ	それぞれ同じ難度を	不足の場合は-0.30点×不足数
バランス	左右にて実施	
ローテーション	(計6難度)	
W (全身の波動)	最低2個	不足の場合は-0.50点×不足数 (A審判より)
ステップ	最低2個	

徒手個人

1. 難度は自由とし、身体要素は必ず左右同じ難度を入れること  
(左右の難度がない場合-0.3の減点×不足数)
2. 審判パネル・・・D1～D4 (難度、W)、A1～A4 (芸術)、E1～E4 (実施)  
各4名の審判の最高点と最低点を除き、残り2つの点数の平均を得点とする。
3. W不足の場合-0.3×不足数
4. ステップ不足の場合-0.5×不足数

【団体】

ジャンプ	左右同じ難度	不足の場合は-0.30点×不足数	
バランス	+どちらか1種類のみ		
ローテーション	左右同じ難度		
W (全身の波動)	最低2個	不足の場合は-0.50点×不足数 (A審判より)	
ステップ	最低3個		
連係(実施順)	最低6個、最高13個	足をフロアにつけたままパートナーの間や下をくぐり抜ける	0.1
		膝より下にいるパートナーの上を通過する※垂直軸での回転を含む	0.1
		膝より上にいるパートナーの上を通過する※垂直軸の回転を含む	0.2
		ブレイクロバットを入れて膝より下にいるパートナーの上を通過する	0.3
		ブレイクロバットを入れて膝より上にいるパートナーの下を通過する	0.3
		ブレイクロバットを入れて膝より上にいるパートナーの上/中を通過する	0.4
		腰より上に持ち上げるリフト ※1回のみ	0.5
		※5人全員でリフティングを行う ※他の連携と組み合わせることはできない	

※計7難度 (ジャンプ、バランス左右+どちらか1種類、ローテーション左右)

徒手団体

1. 難度は自由とし、身体要素ジャンプ・バランスは左右同じ難度+どちらか1種類  
ローテーションは左右同じ難度を入れること (左右の難度がない場合-0.3の減点)  
※リング・バックル要素の使用は1要素のみとする。  
ただし、ジャンプ・バランスの+どちらか1種類のリング・バックル要素を使用するのは可  
従って、バックル要素が使用できるのは最高3個となる。
2. 審判パネル・・・D1～4 (難度、W、連係)、A1～4 (芸術)、E1～4 (実施)
3. 連係は13個まで価値が与えられる。  
連係が6個未満の場合 (-0.3の減点×不足数)
4. 難度は、5人の選手が全て同じ難度を実施する。
5. 5人中4人の選手が正確に行っていれば実施通りの価値を与える
6. W不足の場合-0.3×不足数
7. ステップ不足の場合-0.5×不足数
8. 連係中の同じブレイクロバットグループ内の繰り返しは不可  
※ダンスステップコンビネーション・・・ステップ中はステップのみの動きにする。

<身体要素左右確認>

ジャンプ (前足、回る側)、バランス (上げ足) ローテーション (回る側) にて左右を決定。

※ローテーションの「右」とは、右手側に回ることを指す。

<その他>

個人徒手・団体徒手ともに2022-2024年新体操女子採点規則 (一部改定を含む) を適応する。